

TOPICS

[Vol.45]

耳鳴、難聴、補聴器について

耳鼻咽喉科 福井 潤

耳鳴とは

耳鳴とは、外では音がしていないのに音が聞こえる状態のことをいいます。音として脳に伝わる聞こえの経路における神経活動によっておこると考えら



れています。そのほとんどが現実には音が無い自覚的症狀のみのことが多いのですが、筋肉のけいれんや血管の拍動などが原因の音がある耳鳴もありません。

健康な人でも急激に気圧が変化した時などに、一過性の耳鳴を感じる場合があります。このような耳鳴は放置しておいても心配ありませんが、絶え間なく雑音が聞こえていて寝付きが悪くなったり、仕事や日常生活に支障をきたすような場合も少なくありません。

また、この耳鳴に伴って頭痛や肩こりといった自律神経症状が生じることも多く、これらの症状はさらに耳鳴を苦痛なものにし、悪循環を招くこととなります。

時には脳動脈瘤のような重大な病気が隠れていたり、高血圧や糖尿病の初発症状である場合もあります。特に片側だけ耳鳴がしたり、だんだん大きくなる場合には、耳鼻咽喉科を受診して適切な検査や治療を受けることが大切です。

難聴、耳鳴の原因となる病気

難聴には外耳や鼓膜など、音を伝える部分の障害による伝音難聴と、内耳の神経や聴神経など音を感じる部分の障害によって起こる感音難聴があります。一般に耳鳴を訴える患者さんは感音難聴を伴うことが多いです。しかし、難聴を伴わない耳鳴もあります。

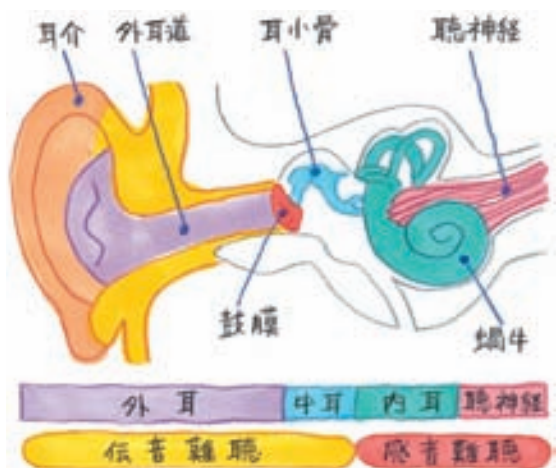
伝音難聴は、外耳炎や中耳炎、耳垢の詰まり、音を伝える骨の異常などがあります。

一方、感音難聴には、突発性難聴やメニエール病、大きな音を聞いた時に起こる音響外傷などによる急性感音難

聴と、老人性難聴などの慢性感音難聴があります。

突発性難聴は、ある日突然耳が聞こえにくくなったり耳鳴を感じたりする病気です。その原因として、まだはっきりとはわかっていませんが、内耳のウイルス感染や血管の異常、血流障害などが考えられています。

突発的や徐々に進行する感音難聴の中には、聴神経の腫瘍が原因になっていることもあります。



難聴、耳鳴の検査

「いつから始まったか」「両耳か片耳か」「どんな耳鳴か」といった問診や、過去の病気や現在治療中の病気の有無などを明らかにするほか、聴力検査、血圧測定や血液検査、頭部のCTやMRI、心理検査などが必要に応じて行

われます。

自覚的な訴えを客観的に評価することは難しいのですが、さまざまな検査から耳鳴の性質や難聴の原因部位を明らかにし、治療法を決めていきます。



難聴、耳鳴の治療

伝音難聴には手術や投薬で治癒できるものもあります。また急性感音難聴や急性耳鳴は、治癒あるいは改善が期待できますので、積極的な検査と治療を行います。



薬物療法として、代謝改善剤や循環改善剤、ビタミン剤、血管拡張剤などが用いられます。

また、耳鳴による不眠が強い場合には睡眠薬を処方したり、神経症的傾向のある患者さんには不安感を軽減する抗不安薬を用いることもあります。

耳鳴の背景にはストレスや精神的緊張が存在することも多く、カウンセリングや自立訓練法などの心理療法やストレス対策が行われることもあります。

原因不明の耳鳴については、決め手となる治療法が確立されていないのが現状です。そういった場合にはいろいろな治療を試みたり、いくつかの治療



法を組み合わせることで治療効果を見ていくことになります。

日常生活ではストレスや睡眠不足、過労を避け、耳鳴の音が変化したり、強くなった場合はすぐ検査を受けるようにするほか、定期的に聴力検査を受けることも大切です。

補聴器について

治療の効果が少なく、難聴が残った場合には、補聴器を装用することもあります。近年、補聴器の発達はめざましく、アナログ補聴器に代わってデジタル補聴器が主流になってきました。当科でも、2003年度はデジタル補聴器の占める割合が3割未満でしたが、2006年度には9割以上を占めるようになりました。

補聴器の発達とともに適応が拡大し、最近では軽度難聴の患者さんでも、日常生活に不自由を感じられる場合には補聴器を装着することがあります。

補聴器を装用するときは、まず耳鼻咽喉科を受診することが大切です。中耳炎がないかを確認し、聴力検査の結

【挿耳型】



果から、どちらの耳に装用するのがよいかを決めていきます。また、両耳装用か片耳装用か、電話の使用頻度や利き手なども考えて装用耳を決めます。

次に、どのような形の補聴器にするかを決めます。ほとんどの場合、耳掛け型補聴器を貸し出して調整しますが、希望があれば後に挿耳型を作ることも

あります。高度難聴の方や電池の出し入れが難しい方は、挿耳型より耳掛け型や箱型をすすめることがあります。

現在のところ、補聴器の効果にも限界はありますが、聴力でお困りの方は主治医に相談されることをおすすめします。

【耳掛け型】



滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する全人的医療」

滋賀医大病院ニュース第18号別冊 編集・発行：滋賀医科大学広報委員会
〒520-2192 大津市瀬田月輪町
TEL：077(548)2012(企画調整室)
過去のTOPICS(PDF版)はホームページでご覧いただけます。

●理念を実現するための 基本方針

- 患者さま本位の医療を実践します
- 信頼・安心・満足を与える病院を目指します
- あたたかい心で最先端の医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 世界に通用する医療人を育成します
- 健全な病院経営を目指します